

## 貧血精査にて発見された橋本病の一例

宮古島徳洲会病院

増成秀樹、関知嗣、照屋葵

症例は 57 歳女性。以前に慢性心不全、精神障害を指摘された事あり。全身倦怠感、便秘を主訴に近医受診し、Hb 5.7 g/dl、MCV88%と正球性貧血を認めたため精査目的にて紹介入院となった。身体所見では眼瞼結膜蒼白で眉毛薄く、巨舌、下腿の non pitting edema、DTR 低下を認めた。甲状腺腫大は認めなかった。腹部 X-R にて腸管の拡張、エコーにて心嚢液貯留、甲状腺萎縮あり、上部・下部内視鏡では異常なし。入院時検査にて FT3 0.2pg/ml、FT4 0.2ng/dl、TSH 58.6  $\mu$  IU/ml、抗 TPO 抗体 24U/ml であり、橋本病と診断した。経過中に麻痺性イレウス、尿閉が出現したが、チラージン補充療法に伴い、上記症状は徐々に改善した。加療 47 日目に Hb7.6g/dl と貧血も改善し、退院した。

甲状腺機能低下症は日常よく見られる疾患ではあるが、今回は貧血という比較的珍しい症状をきっかけに発見された。

貧血の原因として甲状腺機能低下症の頻度は多くは無いが、プライマリケア医は偏見にとらわれず丁寧な全身診察に基づいて日常診療を行わなければならないと思われ知らされた症例である。